

瀧本 禎之

東京大学医学部附属病院心療内科 特任講師

有料老人ホームにおける看取りの実現に関連する要因と、看取りが職員に与える影響

本研究では、有料老人ホームに焦点を当て、そこでの看取りの実態を把握した上で、看取りの実現に関連する要因を明らかにすること、さらに、看取りという多大な感情投入を伴う業務が職員に与える心理的影響についてもあわせて検討を行うことを目的として、ヒヤリング調査およびアンケート調査を実施した。結果、過去1年間に7割以上の施設において看取りが行なわれている実態や、看取りを支える体制が少しずつ整備されてきていることが明らかとなった。ただし、その体制は医療の充実を目指すものではなく、入居者の意思を基本に据えてそれを支えていく体制であると考えられる。また、看取りが有料老人ホーム職員に与える心理的影響としては、中長期的には業務に対する充実感といった正の影響を与えることができる可能性が示唆されたが、そのためには、個々の看取り体験に対して、それを承認する同僚や上司等の関わりが重要と考えられた。